

# きんもくせい

令和6年 学校教育だより

May **5** 第361号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



令和6年度入学式 水中魂 “感動は挑戦と思いやりから” 写真提供/水谷中学校

スタートライン

鶴瀬小学校 六年

佐藤 継利

ぼくは歩く

その先へ

新たな世界へ

さあ はじめよう

春のスタートライン

行こう 歩いて

# 地域交流 じた多様な選択肢～

指導者 東中学校 教諭 星 祥太

### 現状と課題

令和五年度は、地域で活動している立教大学ラグビー部のヘッドコーチと学生をゲストティーチャーとして招き、体育の授業を行った。専門的な技能やルールの伝達はもちろんのこと、競技を通して、人としての考え方や多様な学びの機会となり、大きな教育的効果を得ることができた。

近年、子どもたちの体力低下が叫ばれている。令和四年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」によると、小・中学校男女ともに体力合計点が下がっており、平成二十年度の調査開始以降、過去最低の数値である。さらに、生活の改善によって発育がよくなる一方、体力・運動能力の視点からみると、筋力や反射神経が低下している現状も見られる。この問題は子どもたちの未来のために学校と家庭、地域が連携し、社会全体で考えていかなければならない重要課題である。

### 体力を低下させている背景には何がある？

- ・生徒を指導する中で体力低下の背景には次のようなことがあげられると考える。
- ・暮らしたり生活環境が便利になったことよって運動する機会が減ったこと
- ・スポーツや外で遊ぶために必要な時間や仲間、遊べる場所が少なくなったこと
- ・学校や地域に専門的な指導者がいない、または見つけられないこと
- ・運動を楽しいと思わせる工夫や教員の経験が不足していること
- ・偏った食生活や睡眠不足で生活習慣に乱れがあること



### 実態に応じた学び

このような背景もあり、実際に授業を行っているとき、生徒の体力・技能面はもちろ



ふじみ野小学校 4年  
小暮 優奈

### 市長さんに発表したよ

総合的な学習の時間で学校のまわりにある公園について調べることになりました。わたしたちは、インクルーシブ遊具というみんなが遊べる遊具を発表しました。話しているときは、とてもドキドキしてあっという間でした。でも、発表が終わったあとは、すごくすっきりしました。最後に市長さんが話してくれた時に、まさかわたしたちの提案したインクルーシブ遊具を知っているとは思いませんでした。そして、もしかしたら、提案したことをやってくれるかもしれないと聞いたのですごくうれしかったです。



チするとボール保持者はその場に止まり、守り側は三歩下がったところからプレイを再開するルールにすることで、

このこと情意面においても個人差が大きいと感じる。競技の特性をできるだけ味わわせながら、体力向上を図るためには、生徒個々の実態を十分に把握した上で意欲的に取り組むことのできる授業を構築することが必要不可欠である。そこで、本実践では、立教大学ラグビー部の協力を得ながら、生徒の実態に応じたルール設定や練習方法に焦点を当て、ラグビーの授業を行った。ルール設定例「タックルを両手タッチに」守り側がボール保持者に対し両手でタッ

わかる授業

=中学校 体育=

# 体育授業と ~生徒の実態に

競技の特性を大きく損なわず安全面の確保ができ、白熱したゲームを味わうことができた。

練習方法例「タスクゲームの導入」 攻撃側の人数を増やし、攻めやすい状況のミニゲームを行うことで、競技の面白さを味わわせるとともに、どのように数的優位をつくっていくのかを考えさせ、思考力・判断力も高める場とした。また、チームの特性に応じた攻め方、守り方のオプションについて、ヘッドコーチや学



生から助言をもらったり、実際にプレイを見せてもらったりしながら実戦をイメージさせ学習を深めていった。さらに、実際のゲームで

戦術や体の使い方等について適切なコーチングをもらうことで、目に見えて技能の向上があった。誰もが活躍できるルール設定、チームにあった作戦立案と実戦のための練習の工夫、適切なコーチングによる技能の向上、それぞれが相まって生徒は競技に夢中になり、単元の終盤にはラグビーの専門用語が自然と飛び交うようになっていった。

## おわりに

取組後、生徒の声を聞いて、多様な願いにも応えることができたと感じた。生徒のなかには、「将来的に競技者としてアスリートになりたい。」

「複数の競技を楽しみたい」「仲間と楽しく運動したい。」など様々な願いがある。実態に応じた多くの効果的な取組を行うことでこれらの願いに応えることができ、生徒の選択肢を増やすことができた。ゲストティーチャーと教員の連携でチームティーチングの構築も確立でき、きめ細かい指導もできた。単元を通して専門家の指導を受けることに課題はあるが、今後地域連携を生かした授業づくりを継続していきたい。

## 特別支援教育

### 「特性」と「特別支援教育」

勝瀬小学校 教諭 藤本 純平

個々の「特性」に合わせて配慮、支援をすること、それが「特別支援教育」である。私はそのことを本校の教員及び子どもたちから学びました。

誰もが「特性」があつて、得意なことや苦手なことはそれぞれ。私の学校の教員は、子どもたちの得意なこと、苦手なことも全て「特性」と捉えています。「ここは素晴らしい長所だから大切にしてほしい。」「ここは一緒に頑張つてよくしていこ

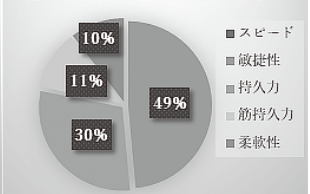
う。」そんなメッセージを伝えながら、一人一人の「特性」に合わせて支援を行っている「特別支援教育」。教員の言葉の一つに、子どもたちへの確かな愛情が込められています。

また、特別支援学級の体制に関しても、「特性」に合わせた様々な配慮を感じます。児童の「特性」に合わせた個別のカリキュラムを綿密に組み、必要に応じて交流学習や交流給食、自立活動を丁寧に行っています。みんな張り

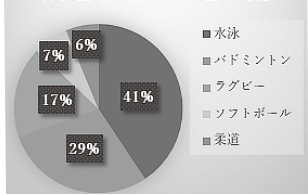
「特別支援教育」の充実は、学校の雰囲気、子どもたちの表情に現れます。一人一人の素晴らしい笑顔と懸命に頑張る姿を大切に、一人一人の「特性」を今後

も大切にしていきます。

生徒が今後、高めたいと思っている体力



年間を通して生徒が楽しと感じた単元



## 指導・講評

東中学校長 丸山 丁士

「学園通り」に建つ地の利を生かし、本校では従来の異校種間交流に加え、今年度から大学との連携を始めました。今回紹介した保健体育科の取組では、大学スタッフによる効果的な動機付けや専門的な指導により、生徒が技術や(戦術的な)様々なオプションをまず「形式的」として「頭でわかる」場面がつけられました。その上で、本校体育科教師が「頭と心」が入りながら、生徒同士が話し合ったり助け合ったりする場面で効果的に織り交ぜられ、運動の得手不得手にかかわらず「楽しめる」「活動がオーガナイズされること」によって、生徒が「身体知」を形成して「身体でわかる」ようになるという理想的な体育授業が展開されました。今後大学をはじめとした異校種及び地域との交流を継続・発展させ、運動やスポーツに対する生徒の肯定的な意識や意欲を高めることのみならず、様々な分野において生徒が「わかる」「できる」「楽しい」を実感できるような活動を充実させてまいります。

### 「子はもちろん、私も成長」

南畑小学校 保護者 玉垣 あずさ

子どもは大きくなり、幼いころは私の後ろに隠れて大人しい子だった娘も四月でもう五年生。先日のイベントで（小規模なものですが）、真っ先に手を挙げ感想を述べている姿を見たときは成長を感じ目が潤んでしまいました。

私は、三年前に育成会役員、二年前と昨年はPTA本部役員として学校や地域と関わってきました。学校の先生方や地域の方と一緒に、ほんの一部ですが子どもたちの成長のお手伝いができたことは、間違いなく私の糧となりました。

家庭と仕事、そして役員。目まぐるしく過ぎる日々。どうあがいても足りない時間。家庭、特に子育ての質は落としたくない。けれど、仕事や役員のこと追われ「あとちょっと」と、宿題を見てあげることができなかつたり、ピアノの練習に付き合ってもらえなかったり、はたまた一年生と四年生の体操着を間違えて持たせてしまったり…申し訳な



く思うことが多くて、もどかしくて。しかし、子どもは強いですね。四年生だった娘は、自ら四十分の自主学習をし、気の進まないピアノの練習は嫌がらなくなり、間違えた体操着は妹の教室へ交換しに行けるようになっていました。「手紙出した？連絡帳は？宿題は？」が口癖になってしまっていますが、言わなくてもできていることも増えてきたように思います。これからは忙しさの中でも、せめて子どもたちの成長を見逃さないよう、気付いてあげたいと思っています。

### 「未来を切り拓くSTEM教育」

水谷東小学校

本校では、各教科で身に付けた様々な見方・考え方を働かせ、児童自らが問題を発見・解決するSTEM教育を取り組んでいます。変化が激しく予測困難な未来を児童が切り拓いていく上で、問題を発見・解決する力は欠かせない力の一つであると捉えています。

本校のSTEM教育は主に総合的な学習の時間と併せて行っています。福祉など、

方を大切に授業も行うようにしています。輝かしい未来に向かって力強く生きていく子どもたちを今後も育ててまいります。



# はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

### 「逆境に挑む！家族と学校と・・・」

西中学校 保護者 磨田 聡

私には妻と二人の息子がおりまして四人とも関沢小、西中の卒業生です。（二男は西中在学中）ただ単にずっと同じ家に住んでいるだけですが、全員が同じ小・中学校に通ったのは何か運命めいたものを感じます。野球、バレーボール、テニス、バスケットボールと学校は同じでも部活動については皆バラバラでした。

長男の中学校生活はコロナ

ウイルスとの戦いもありました。登校はジャージ、給食は黙食、体育やテニス部の活動ですらマスク着用。いろいろな制限される中で生活は親子共々イライラしたのを覚えています。しかし、その逆境の中でも毎日楽しそうに学校へ向かう子どもを見てみると、コロナウイルスが何だ！と恐怖を忘れたこともありました。友だちの存在が大き

いと思いますが、あの逆境の中、子どもたちに不安を与えずになるべく当たり前の学校生活を送れるようにご尽力いただいた教職員の方々に感謝しております。

コロナウイルスと共存する新たな学校生活を送ってもらうと必死に考え、工夫している教職員の姿は、今後、子どもたちが逆境にも負けず、工夫して生きていく力を与えてくれました。

コロナウイルスの恐怖も和らぎ、次は二男の番です。

この数年間で学んだ負けな  
い力で子どもたちの生活をサ  
ポートしていききたいと思いま  
す。

最後に私の中学校時代の恩  
師の言葉で・・・  
『全力あるのみ!』



### 「もくもくピカピカたてわり清掃」

みずほ台小学校

本校の清掃の合言葉は低学年が「ピカピカ清掃」、高学年はそれに加えて「もくもく清掃」となっています。とはいえ、なかなか意識は続かないものです。そういった状況の改善を目指して学期に一回、学年を越えた、たてわりグループで清掃する期間を設けています。このグループで月に一度のみずほタイムで一緒に遊んだり、全校お楽しみ会（みずほハッピーウォール

ド）でお店を出したりして、関係づくりを行ってきました。

たてわり清掃を実施すると、高学年は「お手本となるようにしっかりしよう」、低学年は「お兄さん・お姉さんのようにかっこよくしよう」という意識が芽生え、相乗効果によって「もくもくピカピカ」清掃が実現します。

大人が口酸っぱく指導するよりも、関係ができている子どもたち同士で取り組ん



ただ、はるかに効果があるのには驚かされます。異学年交流で生きる力をはぐくむ、それをもっとも実感できるのが「たてわり清掃」です。

### 教育課題特集

# 夢ときぼうを

## 「地域を知り、想いをつなぐ福祉教育」

富士見市社会福祉協議会 小松 麻依子

人は生きていく中で様々な課題に出会います。その課題を自分で（自助）、周りの人々と共に（共助）、専門の力を活かし（公助）、協働する中で新たな想像をもたらし、いろいろな形で課題を乗り越えていく「生きる力」を身に付けることが大切であり、地域と共に福祉教育を実践することは子どもたちにとって「生きる力」を養う機会となります。

子どもたちに見守られ元気をもらっています。ある日寝坊をして顔を出さずにいると「あれっ、おばちゃんがない!」と心配する声。その言葉を聞き、どれほど嬉しかったことかと仰り、子どもたちへの感謝の気持ちと健やかな成長を願って毎年新一年生にお道具箱を贈るといふ寄付の形が始まりました。

これからも「人と人」と想いをつなげ、支え合っている地域づくりを目指して皆さんと沢山の想いを共有し、形にしていきたいです。

プログラムの常模索していただきます。地域の方の協力を得てのプログラムでは普段の生活について子どもたちからの質問に大人たちが襟を正す場面も見られ、大人も子どもも「互いが地域づくりに必要な存在である」ことを体感する、これぞ「多世代交流」の醍醐味と感じます。



また、市内に住む九十三歳の方は毎朝家の前を通る



勝瀬中

校庭の色とりどりの花々が咲き乱れ、少し遅咲きの桜が満開の中、令和六年度がスタートしました。入学・進学した子どもたちは、新たな目標を掲げて、学校生活を送っています。不安げな下級生を上級生がリードし、微笑ましい光景と共に、学校全体が温かい空気に包まれています。これからも子どもたちが、安全・安心な環境の下で教育活動ができるように、そして子どもたちの可能性をさらに伸ばし、引き出すことができるように、教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。この学校TODAYでは、富士見市内の小・中・特別支援学校の特徴ある活動の様子を紹介させていただきます。生き生きと活躍する子どもたちの姿をご覧ください。

「闇バイトの危険性を訴えよう！」

埼玉県警の依頼を受け、らばーと富士見内で、闇バイトの危険性やその相談窓口について、呼びかけをしました。



諏訪小

「もくもく清掃」

諏訪小学校では毎日15分の清掃を、黙って集中して取り組む「もくもく清掃」を行っています。場が清められる事で、心も清められています。



関沢小

「頼りになる新リーダー」

関沢小学校の新リーダーである6年生が、新入生のために優しい心で接する姿がとても輝いています。



勝瀬小

「クラス最後の行事、『8フェス』」

毎年3学期に行われる「8フェス」。各クラス目標を掲げ休み時間に猛練習。涙あり、笑いありの長縄跳び。熱き戦いの火蓋が今・・・！

|| 教育相談室より ||

「教育相談Q&A」

Q「あすなろ」ってどんな教室？

A「あすなろ」とは、富士見市教育相談室（富士見特別支援学校三階）に設置されている教育支援センターの名称です。この教室では、市内の小・中学校に在籍しているものの、様々な理由から登校していない、または、欠席がちになっている児童生徒に対し、社会的な自立に向けた支援をしています。

「あすなろ」は、午前九時から午後二時三十分まで開室しています。本人の意思を尊重しながら、個々の状態に応じて通い方や過ごし方を保護者の方と一緒に考えていきます。

「あすなろ」では、様々な体験活動や遊びを通じて情緒の安定を図り、小集団による人と人とのかわりを通して、自主性を支援します。また一人一人の学力に応じた学習支援を行い、学習の遅れやつまずきの解消を目指しています。

〈開室期間と主な体験活動〉

【一学期】 四月九日から七月五日

始業式、花の苗植え、ミニトマト・キウリなどの栽培、調理実習、給食センター見学、終業式等



針ヶ谷小

「みんなの思い、飛んでいけ！」

昨年度、針ヶ谷小学校は 40 周年を迎え、「自分たちの学校は自分たちでつくる」をモットーに、子どもたちで 40 周年行事をつくりました。



水谷東小

「花いっぱい運動」

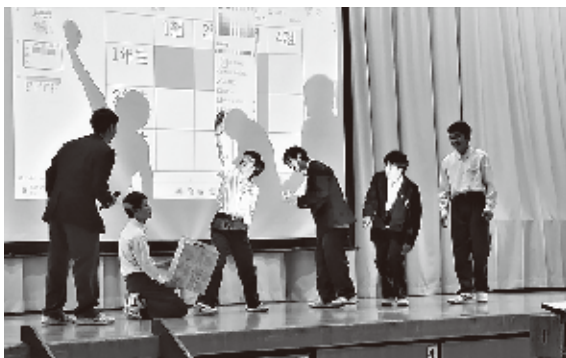
児童会の提案で、たてわりグループごとにお花を植えました。お花のように笑顔いっぱい明るい東小です。



みずほ台小

「団旗とともに思いをつなぐ～6送会～」

3年ぶりに全校そろって楽しい時間に。6年生からは美しい歌と熱い呼びかけ、そして5年生に団旗を継承。みずほ台小を任せたぞ！



西中

「体育祭に向けて」

体育祭の団決め集会を行いました。本番まで各団がどうか成長していくか楽しみです。



東中

「交通安全教室」

全校生徒が自転車通学しているので学期の始めに生徒会が見本となり、交通マナーを周知しています。本校は「自転車通学安全モデル校」(全国43校、県内9校)に指定されています。

【二学期】 八月二六日から十二月十日  
始業式、遠足、おにぎりパーティー、  
理科実験、調理実習、終業式等

【三学期】 一月八日から三月十二日  
始業式、避難訓練、もちつきフェスタ、  
通室修了証書授与式等

\* 通年、軽運動や卓球等もできます。

学習や体験活動に加え、お子さんの状態や気持ちを十分に配慮しながら、学校復帰や社会的な自立に向けて様々な取組を行っています。

〈出張あすなろ〉

家から教育相談室への通室方法に難しさを感じている児童生徒に対しては、公民館等を活用した「出張あすなろ」を開設いたします。

〈通室の申し込み〉

「あすなろ」「出張あすなろ」ともに、通室を希望する方は、担任の先生に申し出ていただくか、富士見市教育相談室までご連絡ください。

(問合せ) 富士見市教育相談室

TEL 0491253153 13

(担当者) 指導員

門田・松丸・白澤・保崎



# 教育委員会だより

## ○令和6年度教育行政方針

<主な取組み>

- ◆STEM教育の成果を活かすため、小学生ロボコン全国大会の予選会開催
- ◆医療機関や大学と連携した児童生徒への多角的な支援の充実
- ◆学校図書館における計画的な図書購入等による蔵書の充実
- ◆敏捷性を高める教材の活用や、社会人等アスリートを講師とした授業による児童生徒の体力向上
- ◆小・中学校6校体育館への空調設備の設置 (全校設置完了)

全文は、市HP、各図書館等でご覧になれます。



## ○運動会(体育祭)・音楽会(合唱祭)等の日程

学校名	運動会・体育祭	予備日	音楽会(合唱コン)等
鶴瀬小学校	5月25日	5月26, 27日	11月2日
水谷小学校	5月25日	5月29日	10月26日
南畑小学校	5月25日	5月26, 28日	11月2日
関沢小学校	5月25日	5月29, 31日	11月9日
勝瀬小学校	11月2日	11月6, 7日	6月15日
水谷東小学校	11月2日	11月3日	9月28日
諏訪小学校	10月19日	10月20, 22日	11月16日
みずほ台小学校	6月1日	6月2, 4日	11月2日
針ヶ谷小学校	5月25日	5月28日	11月9日
ふじみ野小学校	5月25日	5月26日	10月26日
つるせ台小学校	10月12日	10月16, 17日	6月8日
富士見台中学校	5月18日	5月21, 23日	10月23日
本郷中学校	5月18日	5月21, 23日	10月28日
東中学校	5月18日	5月20, 21日	10月31日
西中学校	5月18日	5月21, 23日	10月29日
勝瀬中学校	5月18日	5月21, 23日	10月24日
水谷中学校	5月18日	5月20, 21日	10月30日
富士見特別支援学校	小: 5月31日 中・高: 5月24日	小: 6月7日 中・高: 5月28日	ふじみっこ祭り 小: 11月1日 中: 11月8日 高: 11月12日

## ○令和6年度の学校教育だより「きんもくせい」編集委員

今年度も富士見市の教育理念「人間尊重」の教育を基本とし、その実現に向けて編集に携わっていただきます。

- 《編集委員長》 関口 循子 関沢小学校校長
- 《編集副委員長》 中村 恵美 つるせ台小学校教頭
- 《編集委員》 井村 まき 水谷小学校教諭
- 津田 奈津代 ふじみ野小学校教諭
- 小島 早織 富士見台中学校教諭
- 照井 恵 東中学校教諭
- 倉友 暁 富士見特別支援学校教諭



## 「楽しい」を自分たちでつくる

針ヶ谷小学校 教諭 川畑 那由昂



昨年度担任をした四年生の学年テーマは「楽しい」を自分たちでつくる」でした。教師が「教える」ことではなく、子どもが「学ぶ」ことに目を向けた学校研究を進める中で、

づくりを担当しました。四年生一人一人が全校児童の顔を思い浮かべ、どんなデザインなら楽しんでくれるか、みんなの思い出に残るか、一生懸命考えながら作成しました。

への感謝の言葉、ランチョンマットを使っている他の学年の児童の喜んだ顔がうれしかったという言葉がたくさん書かれていたことでした。学年テーマにある「自分た

ちで」という言葉には、相手思いやることが含まれています。四年生が始まった頃は、まだまだ自分のことで精一杯だった子どもたちも、三学期には、何をするにも誰のため、何のためにするのかを考えて「自分たちでつくる」ことができるようになりました。今年はいよいよ高学年。「自分たちの学校を自分たちで作る」ために、どんな活躍をしていってくれるのか、ずっとずっと見守っていたと思っています。

## 編集日記

令和七年度以降の全国学力・学習状況調査のコンピューター使用型調査(CBT化)を進めるため、文部科学省の専門家会議は三月十九日の会合で、具体的な実施案を了承したという記事を目にした。

コンピューターを使うよさとして三点挙げると①多くのデータを蓄積できる②幅広い領域・内容等での調査ができる③調査日の複数設定ができる等、この他にも有効性が述べられている。

埼玉県の学力調査もCBTで実施している。調査当日は、通信状況等に不安があったものの、本校ではおむね順調に進めることができた。

何より、子どもたちの操作が「さくさく」と音を立てているように感じられ、驚き感心した。調査が終わった休み時間。いつもは元気に校庭で外遊びする子どもたちが、今日は雨天のため室内で過ごしている。「これは、○だよ。」「うん、そうなんだってね。」「タブレットの画面を見せ合っで、嬉々として話し声が弾む。子どもたちとタブレットは、これからは成長し合うよい関係であってほしいと願うばかりだ。

(関口循子)